

エアーラインにおける脱炭素化の取組

～「空のカーボンニュートラル」と日本産業の持続的成長～



ANAホールディングス株式会社 上席執行役員 グループCSO
宮田千夏子

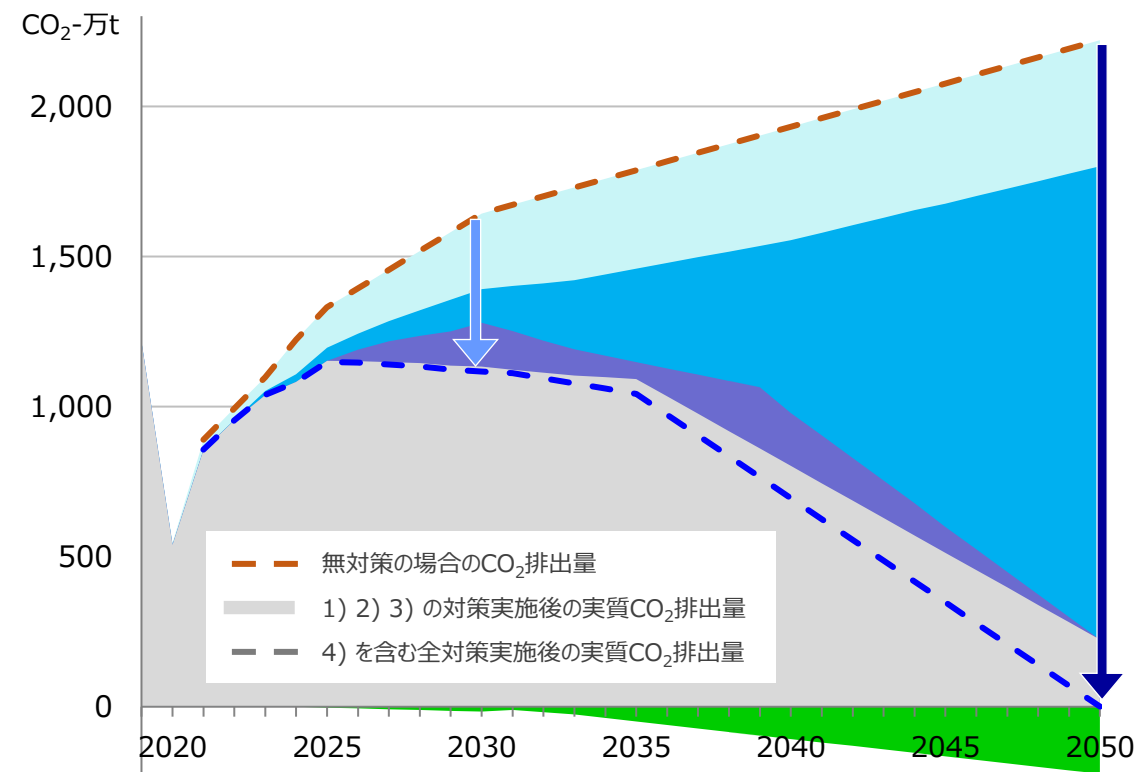


ANAグループのトランジション戦略



消費燃料のSAF*置き換えを進めながら、
2050年カーボン・ニュートラルと、持続的成長の両立を目指す

*Sustainable Aviation Fuel



- 1) 運航上の改善・航空機等の技術革新
- 2) SAFの活用等 航空燃料の低炭素化
- 3) 排出権取引制度の活用
- 4) ネガティブエミッション技術**の活用

<無対策の場合のCO2排出量>
 当社計画、日本政府の訪日目標6,000万人を支える輸送量、ATAG***の国際航空需要の成長予測を勘案して想定
 ***IATAや航空機メーカー等が参加する航空業界のサステナビリティに関する研究グループ

**Negative Emission Technologies(NETs)



Sustainable Aviation Fuel



- ✈ SAFは、バイオマスや廃食油、排ガスなど原料の生産・収集から、製造、燃焼のライフサイクルでCO₂排出量を大幅削減できる代替燃料
- ✈ 従来の航空機や給油施設など既存インフラをそのまま使えるなど、空のカーボンニュートラルの切り札となる



SAFを取り巻く現状と課題



SAFのCO₂削減率

80%



現在のSAF需給ギャップ

0.03%



- ✈ SAFは、従来の化石由来のジェット燃料よりも約80% CO₂排出量を削減
- ✈ 一方、世界のSAF生産量は需要の0.03%に留まっており、量産と普及が急務



SAFの利用促進は「パートナーシップ」が鍵



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

13 気候変動に
具体的な対策を



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



- ✈ 私たちの青い空と、持続可能な未来を守るためには、SAFの利用促進という「具体的な対策」が不可欠
- ✈ また、空のカーボンニュートラルという目標達成に向けた「パートナーシップ」のしくみが必要



SAF Flight Initiative

For the Next Generation

- ✈ 産業横断でSAF普及を推進し サプライチェーン（GHGプロトコル Scope3）のCO₂排出量の削減
- ✈ 協力して持続可能な未来をつくるパートナーシップ・プログラム

SAFの普及により 持続可能な未来をつくる



- Scope3基準とは組織のサプライチェーン全体の排出量の算定基準
- 正式名称「Corporate Value Chain (Scope3) Accounting and Reporting Standard」
- 15のカテゴリに区分されている



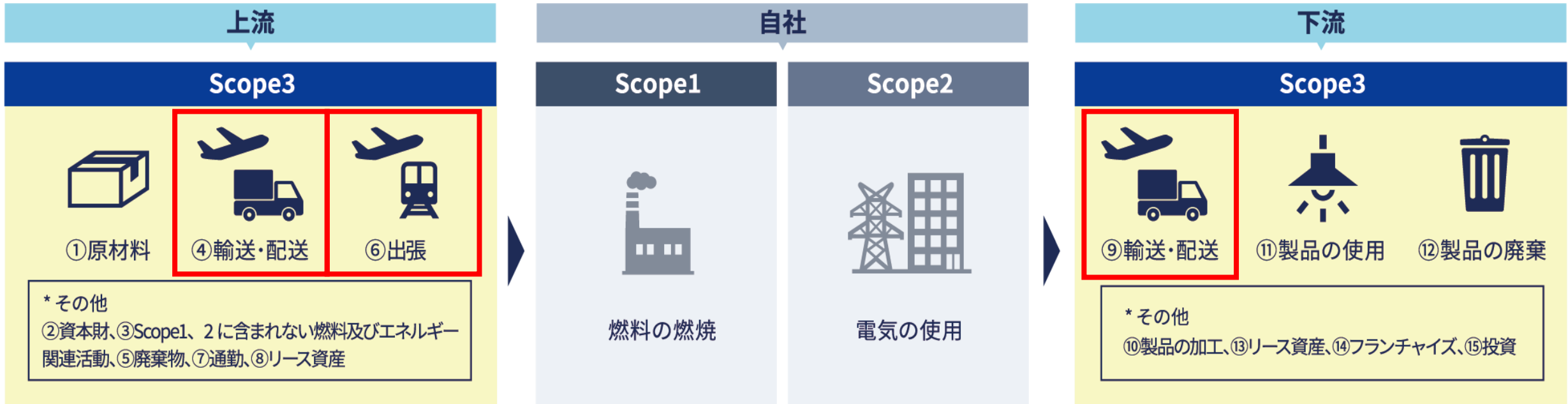
Corporate Value Chain (Scope 3) Accounting and Reporting Standard

*Supplement to the GHG Protocol Corporate
Accounting and Reporting Standard*

航空輸送ではお客様のScope3のうちカテゴリ[4][6][9]を担っている

[4] サプライチェーン上流の「輸送・配送」
 [6] サプライチェーン上流の「出張」

[9] サプライチェーン下流の「輸送・配送」

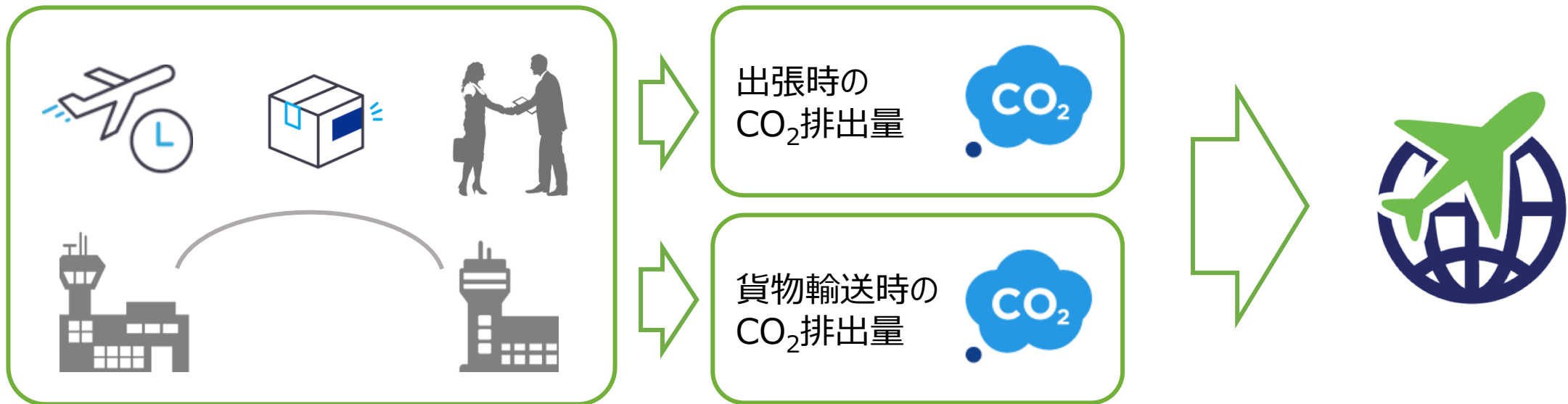


出所：環境省資料よりANA作成

航空輸送の利用実績に応じて算出してScope3 CO₂排出量を「見える化」し、
具体的なソリューションを提供

ご利用実績（輸送距離・重量・クラス等）から Scope3 CO₂排出量を「見える」化

ソリューションの提供



ソリューションの概要



プログラム参加企業様 (2023年2月現在)



NOMURA



Kintetsu World Express



三井倉庫エクスプレス



ご活用事例：近鉄エクスプレス様のケース

サステナビリティ・レポート 2022

SAF (持続可能な航空燃料) プログラムへの参加を拡大

バイオマス・廃食油・獣脂等を原材料とした、収集～製造～燃焼の全行程におけるCO₂排出量を従来比80%程度削減できるSAF (Sustainable Aviation Fuel: 持続可能な航空燃料) は、航空機の脱炭素化に向けた切り札の1つとされています。

連結営業収入の50%弱を航空貨物輸送で占める当社グループはこれを積極的に活用することで、
「お客様への低炭素輸送オプションの提供」
「お客様のサプライチェーンにおける排出量削減への貢献」
「当社グループのScope3のCO₂排出量削減」を進めるべく、2021年9月、全日本空輸株式会社のSAF利

用促進プログラム「SAF Flight Initiative: For the Next Generation」に賛同し、日本発として最初のSAFを使用した貨物便を利用しました(成田ーフランクフルト間)。

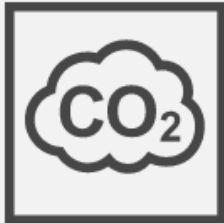
また、2022年4月には、キャセイパシフィック航空のSAF利用促進プログラムにアジア初の継続的パートナーとして参加し、同社の航空貨物輸送を利用することで、Scope3のCO₂排出量削減も進めています。今後も、CO₂排出量削減に即効性のあるSAFプログラムへの参画を継続・加速することで、脱炭素化・カーボンニュートラル実現への貢献を強化していきます。



出所：近鉄エクスプレス サステナビリティ・レポート2022よりANA作成

ご活用事例：PwC Japan様のケース

Our commitment to Net Zero by 2030



50% absolute reduction of our scope 1 and 2 emissions as well as a 50% reduction in scope 3 business travel (incl. land-based travel, air travel and accommodation) greenhouse gas emissions by FY30 (compared to a FY19 base)

Scope 1, 2 および社員が出張に伴う移動で航空機を利用する際の温室効果ガス排出量（Scope 3 カテゴリー6）を2030年までに2019年比 50%削減



出所：PwC WebページよりANA作成



日経優秀製品・サービス賞 2022 を受賞



日経産業新聞賞

再生燃料普及プログラム「SAF・フライト・イニシアチブ」

全日本空輸

廃油や植物を燃料とした環境負荷の少ない航空燃料（SAF）の活用を広げる取り組み。航空機を出張や貨物輸送で使う企業がSAFのコストを一部負担する代わりに、二酸化炭素（CO₂）削減を証明する証書の発行を受けられる。

脱炭素の流れが進み、企業は移動でのCO₂の排出量も情報開示が求められるようになってきている。プログラムに参加すると航空機の飛行距離に応じて、実際にどの程度のCO₂削減に貢献したかを算出。発行される証書を投資家などに対する情報開示に利用できる。

出張で使う企業向けプログラムには伊藤忠商事や野村ホールディングス（HD）、貨物で使う企業向けプログラムには近鉄エクスプレスなどが参加している。SAFはライフサイクル全体で航空機から出るCO₂排出量を8～9割へらせる。一方で世界的に供給が少なく、コストが高い。業界の枠を超えて協力企業を増やし供給拡大を後押しする。

出所：日本経済新聞社 WebページよりANA作成

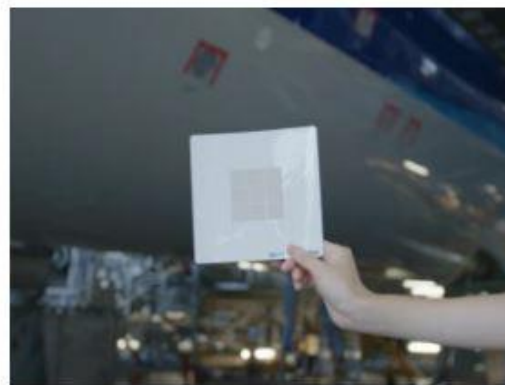


お客様とともに、持続可能な未来をつくる

「ANA Green Jet」における各種サステナビリティを推進する施策は実現可能性や、実際にご利用いただいたお客様のご評価によってその他の機材や路線へ拡大していきます。



座席のヘッドレストカバー



鮫肌（リブレット）加工



CAのエプロン



ANA Green Jet

検索

ご清聴ありがとうございました

ANAホールディングス株式会社 上席執行役員 グループCSO
宮田千夏子